

加ドル、NAFTA 難航で上値重い

- ◆ポンド、英景気減速懸念の売りは落ち着くも指標低調で上値は重い
- ◆加ドル、難航する NAFTA 再交渉が上値圧迫要因に
- ◆加ドルは 5 月 CPI に注目、金融政策に影響も

予想レンジ

ポンド円 143.20-149.80 円

加ドル円 82.50-86.50 円

6 月 18 日週の展望

来週のポンド・加ドルは上値の重い動きが予想される。米利上げペースの加速観測で、ドル高基調が継続すると思われる。ポンドは最近の低調な経済指標が重しとなり、加ドルは難航する北米自由貿易協定 (NAFTA) 再交渉の行方が引き続き上値を圧迫しそうだ。

今週の英経済指標はおおむねさえない結果となった。1-3 月期国内総生産 (GDP) の鈍化を受けて景気減速懸念を背景としたポンド売りが進んでいる。今週の経済指標に対する反応は限られたが、ポンドの上値圧迫要因になっている。4 月貿易収支は、輸出が落ち込み輸入が増えたことで 140.35 億ポンドの赤字と、1 年 7 カ月ぶりの水準まで赤字額が拡大した。英国は欧州連合 (EU) からの輸出・輸入がともに 5 割以上占めており、EU 関税同盟・単一市場から離脱すると大きな影響を受けることは間違いない。4 月鉱工業・製造業生産は前月比でともにプラス予想に反しマイナスとなった。4 月 ILO 失業率 (3 カ月) は 43 年ぶりの低水準となる 4.2% を維持し、上昇基調だった平均週間賃金は +2.5% とわずかながら前回から減速し市場予想を下回った。5 月消費者物価指数は前年比で市場予想の +2.5% に対し +2.4% と約 1 年ぶりの低水準となった 4 月から横ばい。低調の結果を受けて 8 月利上げ観測は一段と低下した。

英下院は今週、EU 離脱法案の修正案を反対多数で否決した。メイ首相は、保守党の親 EU 派議員に譲歩を約束して造反を阻止することに成功し、一安心したところだ。修正案は EU 離脱に向けた最終合意に対して議会の権限を強化する内容だが、否決されたことでメイ政権が EU との合意内容を拒否しても議会は交渉再開を命じることはできない。ただ、親 EU 派議員に譲歩したことで、離脱派は離脱交渉で政府の立場が弱まることを懸念している。

加ドルは NAFTA 再交渉を巡る不透明感で上値の重い動きか。目標としていた 5 月半ばまでの合意に失敗している。7-9 月に協議し合意を目指す向きもあるが、11 月の米中間選挙に向けて米国が一段と強硬姿勢を強める可能性があり、協議は難航すると思われる。ナバロ米国家通商会議 (NTC) 委員長は合意できないのはカナダの責任だとし、トランプ米大統領に逆らうとトルドー加首相は地獄を見ると脅した。加国内で米国の鉄鋼輸入制限による打撃が最も大きいオンタリオ州で、「カナダ第一主義」のフォード氏が州首相に就任したことも、NAFTA 再交渉の障害になる可能性がある。来週末 22 日には 4 月の小売売上高や 5 月消費者物価指数の発表が予定されている。結果は 7 月 11 日に予定されているカナダ中銀 (BOC) 会合での議論に影響を及ぼす可能性がある。

6 月 11 日週の回顧

今週はポンド、加ドルともに上値の重い動き。ドル買いが優勢となる中、ポンドドルは 1.32 ドル台、ドル/加ドルは 1.31 加ドル近辺までドル高が進んだ。米朝首脳会談の無事通過などを背景にリスクオフの円買いが後退し、対円では底堅い動きも、さえない英経済指標や NAFTA 再交渉にまつわる不透明感で上値は限定的。ポンド円は 148 円近辺、加ドル円は 85 円前半を高値に伸び悩んだ。(了)